

学生の直接対話を通じて、総合政策学部の活性化を図る催しとして始められた。次年度から、キャンパス・ミーティング2003、キャンパス・ミーティング2004と代を重ねているが、一部授業内容の改善等、すでに実行されたものもある。一例を挙げると、2002年度のミーティングにおいて、留学生から日本語の授業内容のさらなる充実を求める提言が出され、担当教員らによる検討の結果、クラス数の増加による少人数化と能力別クラス編成の徹底化が行われた。

2005年度は6月7日2限（参加者70名）、6月29日（水）5限（同70名）、6月30日（木）5限（同100名）の3部制でおこなわれた。なお、運営は主に学生主任と学生からの応募者による実行委員会でおこなわれている。第1部は、学部生製作による開設10周年記念映像の上映と、福田学部長ならびに学生代表（応募によって募集）からの問題提起のプレゼンテーションをおこなった。第2部は福田学部長ならびに篠原理工学部長から、両学部生に向けた講演があった。神戸三田キャンパスの活性化をめぐる、両学部が学生・教職員をまじえておこなったイベントとしては初めてのものとなった。

第3部は、両学部からの学生代表による、神戸三田キャンパスならびに両学部についての活性化をめざしたプレゼンテーションと総合討論がおこなわれた。今後、これらの提案をもとに、KSCをより快適に、かつ活性化する道を考えていく組織作りに着手する予定である。

（点検・評価の結果）

シラバスの作成と活用については開設当初から実施済みであり、円滑に運用されている。ただ、学生の授業評価に関しては、学部単位で、組織的に行っているとはいえない状況だったが、2005年度春学期からは全学一斉方式で、学生による授業評価を実施し、総合政策学部でも全科目で100%の授業で授業評価を行った。キャンパス・ミーティングについては、年を追うごとに規模が大きくなっており、成果が出ていると思われる。

（改善の具体的方策）

授業評価については、全学一斉方式の体制の中で行うが、評価結果を積極的にFD活動に結びつけ、授業の改善に資するように努力していく必要がある。

8.1.4.6 課程修了の認定

【評価項目6-6-2】 課程修了の認定（大学3年卒業の特例）

（選択要素）3年卒業制度措置の運用の適切性

<2003年度に設定した目標>

1. 大学院進学希望者に対する3年卒業制度の設置

(現状の説明)

本学大学院に早期に進学することを希望し、以下の要件を満たしているものに対して、3年卒業を認めている。①3カ年以上の在学期間があること。②卒業に必要な単位をすべて修得すること。③卒業に必要な単位に含むことのできる科目の平均点が第2学年度終了(出願)時点と第3学年度終了時点でそれぞれ85点以上あること。④本学当該研究科が入学を認めていること。

(点検・評価の結果および改善の具体的方策)

現在、2005年度の総合政策研究科に3年卒業の制度を利用して、1名の学生が入学した。この制度に対する学生の認知度も高くなっており、今後も順調に機能していくと思われる。